

学校だより

修業式号

それゆけ三中

教育目標：より確かに・より豊かに・より遅しく

令和3年3月24日
足利市立第三中学校

生徒数：198名
発行者：高木秀和

桜の開花が始まり、川べりには菜の花が揺れています。教室に響いていたファンヒーターの音もいつか消えています。ウインドブレーカーの黒や紺や白から、三中カラーの橙と青が校内を染め、春の訪れを音と色で感じる季節になりました。コロナ禍の中で2ヶ月遅れで始まった令和2年度は、授業を補うための7時間日程や行事の中止、延期、規模の縮小などこれまでに経験したことのない学校生活でした。しかし、皆さんは、新しい生活様式に順応し、コロナ感染拡大予防に積極的に務めながら、先生方と共に、「できないではなく、何ができるかを考え実行する」という前向きな姿勢で、合唱コンクール、全校レク大会、未成年の主張、予餞会、各学年の行事等に取り組み、新たな学校生活を実現しました。まさに、第三中学校の教育目標である、「より確かに・より豊かに・より遅しく」を生徒全員で実現しました。本年度の学校だより最終号に寄せて、心から感謝の言葉を贈ります。一年間、本当にありがとうございました。

第3学期 修業式 生徒代表の言葉 堂々と素敵な発表でした【発表内容の要約：体育館にて】

1年2組 **さん**
3学期に頑張ったこと、①自主学習；毎日自主学習をする目標を達成、くじけそうになったこともあったが努力を続けた②理科；苦手なので勉強方法を工夫したり、過去の問題を解いてみたりした③予餞会；内容を考えたり、たくさん劇の練習をしたりと協力して創り上げた。



2年1組 **さん**
3学期は二学期から準備を始め自分達で創り上げた予餞会など貴重な思い出ができた。3年生になっての目標は二つ。①勉強；毎時間の授業の復習と入試対策をする。疑問に思ったことはすぐに解決する。②部活；総体に向け悔いのないよう毎日の練習を頑張る。



卒業式 3/11 (木)



卒業式は、3年生と保護者様、PTA会長、2年生代表1名（送辞）、教職員のみでの挙行となりました。1、2年生は前日、当日と先輩のために大変熱心に会場準備をしました。式ではコロナ禍対策で、密を避けた座席や消毒の徹底に加えて、国歌、式歌、校歌は黙唱で行いました。黙唱とは、声にだしては歌わず、曲の伴奏やCDを聴きながら心の中で歌うという方式です。校歌と式歌は、生徒の皆さんが練習し実際に歌ったものを録音して会場に流しました。3年生全員が、卒業証書授与の場面では担任の先生からの呼名に、「はい」と3年間の想いと感謝を乗せて、会場の親御さんと先生、友人に届けてくれました。静粛な雰囲気の中での3年生の真摯な姿を誇りに思いました。



ワックス清掃② 3/19 (金)

今回は教室、TT教室、保健室、校長室のワックスがけを行いました。スポンジと液剤で古いワックスを落とし、その後は、洗剤のベトつきがなくなるまで何度も水拭きを繰り返しました。生徒一人一人が、床に顔がつくほどかがんでスポンジで擦り、雑巾を何度もゆすいで拭き取る姿には、言われてやらされているという感はなく、むしろ仲間と学校を楽しみながら美しくするという積極的な奉仕の気持ちが溢れていました。感謝に尽きます。



古紙・アルミ缶回収 最終回 3/18 (木)

1年間、資源回収へのご協力をありがとうございました。寒さも若干和らいだ朝、生徒たちは慣れた手つきで缶を潰したり、紙類を縛ってまとめたりして、テキパキと作業を進めていました。回収での収益金は、生徒の教育活動に使わせていただいております。来年度も引き続き、ご支援のほどよろしくお祈りします。



表彰

修業式にて表彰しました。努力の軌跡、栄光を称えます。おめでとうございます。



足利地区理科研究展覧会	銅賞	佳作	
第51回記念下野教育美術展	金賞	青少年作文	佳作
		奨励賞	
入選			
	足利市教育祭図工美術展	金賞	
青少年の健全育成と非行防止に関する標語	優秀賞		

学校評議員さんより～一年間を振り返って～

【学校評議員さんのアンケートより抜粋させていただきました】

助戸地区女性副部長

様

この1年はコロナの影響でいろいろな行事が変更または中止となりその都度の対応が難しかったと思います。各日より等から、日頃の熱心な様子が伝わってきました。

千歳地区民生委員

様

生徒皆さんの明るいあいさつ、その礼儀正しさに感心しています。コロナ禍の中で、工夫・努力をし、「大変なことはかりではないんだよ」という皆さんの姿勢に感動しました。

三中PTA顧問

様

「チーム三中」のスローガンを掲げ先生と生徒が一丸となつてまとまりのある学校であり、学校生活を通して学習面と礼儀や人に対する優しさ等の人格形成にも力を入れている。

三中PTA顧問

様

この一年時にはつらい判断にも迫られ苦労されたと察します。子どもたちの人格形成を目指す中で、地域・家庭も学校と共にコロナ禍での知識や理解を深めていくべきです。

三中PTA会長

様

「チーム三中」を合言葉に、子ども・先生・保護者、学校全体がまとまっています。また、少人数のよさを生かすきめ細やかな工夫が様々な行事で見られました。

修業式 講話より 「ゴール無限」マラソンランナー 君原健二さんの言葉

「ゴール無限」、これは現在80歳の君原健二という方の言葉です。君原さんは、マラソンランナーとして、1964年の東京オリンピック、その4年後のメキシコシティーオリンピック、そして、さらに4年後のミュンヘンオリンピックと3回オリンピックに出場し、メキシコシティーオリンピックでは銀メダルに輝きました。また、現役時代の35回のマラソンで、途中棄権が一度もありませんでした。そのため、「鉄人ランナー」とも呼ばれていました。しかし、はじめからこんなに優れていたわけではありません。「努力のランナー」でもあったのです。

君原さんは、小学校6年生まで、勉強に対しても運動に対しても劣等感の塊だったとご自身で言っています。ただ、この劣等感のおかげで、少しでも恥をかくまいと、何にでも努力をする習慣が身についたそうです。そして、中学1年生の冬の校内マラソン大会で学年200人中、11位に食い込んだのがきっかけで、2年生になって駅伝クラブに誘われます。君原さんは、気が弱くて断れず、それが陸上競技との出会いになりました。

それからの君原さんは、常に限界に挑戦し続けました。「努力は人間に与えられた最大の力」と信じ、人一倍練習しました。他の選手より1メートルでも長く走ろうと、トラック練習では2、3コース外側を走りました。「たとえ順位や記録に表れなくても、努力した事実は残る。それだけでも、人は報われる」そう信じていたと言います。

それでも、レースは過酷で、時にはレースを投げ出したい衝動に駆られたこともあったそうです。そんな時、君原さんは、目標を小さくしたそうです。最初は「あと5キロ頑張ろう」と自分を励まします。それでも苦しければ「次の曲がり角まで」と目標を縮めます。最後には「次の電柱まで」と走り続けました。だから、途中棄権はゼロなのです。

よく人は、自分ができないことの言い訳をします。自分には、力がない。体格が小さい。環境が悪い。様々な言い訳を必ず用意しています。それでは、夢や目標に向かって、無心に努力を続けていると言えるでしょうか。「あの街角まで、あの電柱まで、あと50メートルだけ」と走り続けていると言えるでしょうか。

君原さんは、2016年4月の第120回ポستنマラソンに、50年前の優勝者として招待されました。それまで、毎年フルマラソンを走り続けていた君原さんは、当日、75歳の年齢にして4時間53分という記録で42.195キロを完走されました。人生で74回目のフルマラソンでした。また、足利市でも3月28日、日曜日に東京オリンピック、パラリンピックの聖火リレーが開催されますが、現在80歳の君原さんも、かつての友人であり、若くして亡くなられた円谷選手の故郷、福島県須賀川市の聖火ランナーとして、3月27日に走るそうです。

本日、修業式を終え、新たな春に向かって進級しスタートを切る皆さん、自分の目指す夢や目標に向かって走り続けてください。そして、たとえゴールが訪れたとしても、また次の目標に向かって、ただひたすらに走り続けてください。まさに、「ゴール無限」なのです。たった一つ限界があるとしたら、それは自分が決めた限界なのです。皆さんが、夢や希望をもって、4月から授業や部活動、習い事などに、取り組めることを願っています。

おうかめ あけ かわおと きくなのはな いちよう は よぶ てん ひとみ
梅花目を開け 川音を聴く菜の花 銀杏の葉を呼ぶ 天の瞳

